

太陽光発電の導入数「世界一」からすべりおちた日本

林 敏秋 (ワーカーズコープ エコテック)

ドイツとの制度、政策の違いが

「太陽光発電の導入量世界一」という原稿をこのニュースで書いたのは、3、4年前ぐらいだとおもう。2005年に日本は「世界一」の座から引きずりおろされた。世界一の座に着いたのはドイツである。2005年度の日本の導入量は29万kW、ドイツは60万kWだった。この時点で累積導入量は日本143万kW、ドイツ154万kWと11万kWもの差がついてしまった。「世界一」が好きな日本政府や経産省の官僚たちは、この時相当悔しがったらしい。その証拠に今年の6月頃になって「なぜ日本が太陽光発電で世界一になれたのか」という豪華な書籍を発行し、NEDOの補助金説明会などで無料配布をはじめたのである。ドイツとの差は2006年度さらに開いて日本29万kW、ドイツ115万kW、累積導入量は日本169万kW、ドイツ286万kWと100万kW以上も差が付いてしまった。

こうした結果をもたらした理由はいろいろあるが、最大の要因は国の自然エネルギーに対する政策の違いにある。日本は、「電気事業者による新エネルギー等の利用に関する特別措置法」(RPS法)によって電力会社に自然エネルギーでの発電量を割り当てている。その割合目標は2010年で1.35%だった。電力会社は、自然エネルギー設備の新規設置の努力をせずともクリアできる数値だといわれていた。そんなこともあって今年この数値が見直されたが、2014年で1.63%というもの

であった。一方ドイツが参加するEUの政策は、一次エネルギーの再生可能エネルギー比率を2020年で20%にするという意欲的なものである。ドイツは再生可能エネルギー法によって電力買い取り価格が、数倍というのには有名な話だ。

生製品の約65%が輸出に



この結果、現在日本で生産された太陽電池は、2006年段階で約65%が輸出に廻されている。メーカーの人に聞いても国内販売価格より海外販売、特にヨーロッパは高い価格で買ってくれるという。日本国内の太陽光発電の市場は、国の住宅用補助金政策が2005年に終了したこともあり、低迷が続いている。店をたたんだという販売店の噂もよく耳にするし、売上げが半減したという声も聞く。メーカーに聞いてもやはり2~3割減ったというところもある。販売価格も底をついて上がりはじめている。新エネルギー財団が発表したものでも05年66万円/kW、06年68万円/kWとなっている。

地球温暖化防止の切り札として期待されている太陽光発電が、そのかけ声と裏腹に日本国内では厳しい局面にたたかされているのである。採算を度外視した個人の環境を重視するボランティアな取り組みで「世界一」となったが、やはり制度、政策まで高めないとホンモノにはなり得ないことが明らかになった。参議院選での民主党の躍進で政権交代が叫ばれている今こそ、日本の自然エネルギー政策の転換を強く叫ばなければならない。

2007年総会を終えて

総会の参加者は15名。正会員総数49名で、委任状をいただいた方は13名、定足数に達していますので、立派に「成立」なのですが、毎年これだけいいのかと考え込んでしまいます。参加者15名の大半は理事と事務局スタッフ、理事会とほぼ同じメンバーで年1回の総会が成立しているのです。幸いおひさま発電所設置事業はかなり順調ですが、活動を根っこで支えていただきたい「正会員」の数は減少傾向で、スタッフはいわゆる「ボランティア」に近い状態で、かなり「NPOらしく」活動を続けています。わざわざきょうとグリーンファンドの総会に併せて東京から参加して下さる会員さんもいらっしゃいます。新しい連携も

事務局長 大西啓子

始まりそうです。事業の展開を楽しみに、今年も楽しく活動できたら、と思います。…ホンネ、もっと会員が増えたらええのに。会員さんが増えるにはどしたらいいんやろか…良いお知恵がありましたら、お貸しください。

ホームページが新しくなりました

きょうとグリーンファンドは、寄付金が所得税除除の対象となる「認定NPO法人」を、大阪国税局に申請中です。これを機に多くの人々に、きょうとグリーンファンドの活動をご理解していただくために、ホームページを新しくしました。ご覧いただき意見をいただけますようお願いいたします。

<http://www.kyoto-gf.org>